

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鹿島市立明倫小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上に関して、タブレットを効果的に用いた授業実践や家庭学習の工夫が図れた。次年度はこの実践を生かす目に見える成果を出すために、全国学習状況調査や県調査で目標得点を設定し、職員の共通理解と共通実践を行う。</li> <li>支援や特別な配慮を要する児童が増えてきているので、今年度以上に職員の特別支援教育についての専門性を高めるための研修会の場を増やしていきたい。また、特別支援教育についての情報発信を積極的に行い啓発していく。</li> <li>職員の時間外勤務時間削減のため、勤務時間を意識し、集中して業務に専念させる。そのために、定時退勤日の確実な実施と、その日以外も退勤時刻を設定する。そうして職員一人一人が業務に集中して取り組み、また見直しをもって取り組めるようにする。</li> </ul>
------------------	---

2 学校教育目標	「いい顔 いい声 いい動き」の明倫っ子の育成
----------	------------------------

3 本年度の重点目標	<p>【知】自ら考え学ぶ子どもの育成</p> <p>【徳】思いやりのある子どもの育成</p> <p>【体】たくましい子どもの育成</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	
●学力の向上	○主体的に学びに向かう児童の育成	○「見直しをもって自ら学習に取り組んだ」と肯定的な回答する児童80%以上 ○「めあてからふりかえりまでの学習過程に沿った授業を実施できた」と肯定的な回答をする教師90%以上 ○タブレットを効果的に活用することができた と回答する教師80%以上	・児童が進んで課題解決に取り組むための見直しの具体化を図る。 ・児童の興味関心を高める課題設定の工夫を行う。 ・授業でのICTの利活用と共に、効果的に使用できるよう周知及び研修を行う。	A	・課題の設定を工夫したことから、見直しをもって課題解決に取り組めたと回答した児童は93.6%だった。 ・めあてからふりかえりまでの学習過程を意識して授業づくりを行ったため、肯定的な回答した教師は94.1%であった。以上のような取組を継続していく。	A	・見直しをもって課題解決に取り組めたと肯定的に回答した児童は93.3%である。課題設定の工夫だけでなく、教科ごとにある程度の授業の型が揃っていることで、見直しをもって取り組んだと考えられる。 ・めあてからふりかえりまでの学習過程を意識した授業づくりを行ったと肯定的に回答した教師は92.9%であった。	・指導教諭 ・学力向上コーディネーター ・まなびチーム
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートで「生活の4つの約束を守ることのよさを感じる」と肯定的に回答する児童90%以上 ○「いい声(自他の心に優しい声)」ができた と回答する児童90%以上	・児童の状態に合わせて月ごとの生活のめあてを設定し、月末に振り返りを行う。 ・子どもたちの様子を放送や掲示板で中間報告し、自分自身の状況をメタ認知させることで、次の行動に生かす機会を設ける。	B	・月ごとの生活のめあてを設定することで、自分の課題や目標を把握しやすくなり、学習や生活面での見直しをもって取り組む姿が増えている。 ・放送や掲示による中間報告を通して、児童が自分の姿を客観的に振り返る機会が生まれ、友達の頑張りに刺激を受ける場面も見られる。	A	・月ごとの生活のめあての設定と周知、生活安全担当からの定期的な呼びかけと学校の決まりの掲示、児童のがんばる様子の掲示等で、「生活の4つの約束を守ることのよさを感じる」と肯定的に回答する児童90%以上を達成することができた。 ・SCの先生と協力して、効果的に心の学習に取り組むことができた。 ・「いい声」ができた と回答する児童90%以上を達成することができた。	・生徒指導主任 ・生活安全チーム
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめの未然防止対策をする職員100% ○いじめを認知後の適切な対応ができる職員100%	・いじめに関する研修会を開き、全職員でいじめに対する意識と対応力を高める。 ・心のアンケートを定期的に実施する。 ・子ども教育相談の機会を設け、全児童の話聞く時間をとる。 ・「はあとボックス」を設け、児童が自由に相談できるようにする。	B	・毎月の「心のアンケート」を毎月実施することができた。今後、更にその情報を確実に共有できるよう、定期的に回収するように見直した。 ・子ども教育相談を実施し、児童、職員ともに肯定的な反応が過半数を占めた。 ・「はあとボックス」を確認し、情報共有を行っている。 ・「いじめの未然防止対策をする職員」は94.1%であった。今後さらに連携をとり、100%を目指したい。	A	・「心のアンケート」を毎月実施することができた。情報を確実に共有できるよう、回収日を定めて、計画的に取り組むことができた。 ・子ども教育相談を2回実施し、児童、職員ともに肯定的な反応が多かった。 ・「いじめの未然防止対策をする職員」は100%であった。その内、「だいたいできた」が85.7%だったので、今後さらに協力をし、「できた」での100%を目指したい。 ・「いじめ認知後の適切な対応ができた」職員は、92.8%ができていたとのことであったが、7.1%は「あまりできなかった」であったため、さらなる職員間での連携が必要となる。	・管理職 ・教育相談担当 ・学年主任
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「将来の夢や目標に向かって努力している」と肯定的に回答した児童85%以上 ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ◎「鹿島の人・物・事のよさに気付いた」と回答する児童80%以上	・キャリアパスポート等を活用し、目標や見直しをもって活動に取り組ませたり、活動を通して伸びた力について振り返らせたりする。 ・「ほめるからはじめる、はじまるを合言葉にして児童のよさを認め、称賛する。 ・地域の人・物・事を活用した体験活動を充実させる。	・キャリアパスポート等を活用し、目標や見直しをもって活動に取り組ませたり、活動を通して伸びた力について振り返らせたりする。 ・「ほめるからはじめる、はじまるを合言葉にして児童のよさを認め、称賛する。 ・地域の人・物・事を活用した体験活動を充実させる。	A	・「将来の夢や目標に向かって努力している」と肯定的に回答した児童は88.9%だった。 ・キャリアパスポート等を活用し、目標やめあてを立て、振り返りを次の活動につなげるようにしている。 ・どの学年も、年間の見直しをもち、実行委員制を取り入れた活動をしている。 ・各委員会が毎月振り返りをし、反省をもとにめあてを立てて活動に取り組んでいる。	A	・「将来の夢や目標に向かって努力している」と肯定的に回答した児童は88.6%だった。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と肯定的に回答した児童は90.7%以上だった。今後も、児童のよさを認め、前向きな活動を促したい。 ・「鹿島の人・物・事のよさに気付いた」と肯定的に回答した児童は92.5%だった。
○児童が主体的に取り組む特別活動の充実	○「学校行事や学級活動、児童会活動に楽しんで取り組んでいる」と肯定的に回答する児童85%以上	・行事において実行委員を募り、児童が主体的に活躍できる場を設定する。 ・委員会活動では、児童自ら気付いて行動できるように、振り返りを生かした活動を支援する。	・「学校行事や学級活動に楽しんで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童は91.2%だった。 ・どの学年も、年間の見直しをもち、実行委員制を取り入れた活動をしている。 ・各委員会が毎月振り返りをし、反省をもとにめあてを立てて活動に取り組んでいる。	A	・「学校行事や学級活動に楽しんで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童は89.4%だった。実行委員や各学級での役割など、経験を積み重ねたことが次の活動に生かされている。 ・各委員会が工夫を凝らした取り組みを企画し、全校を巻き込んだ活動が多く実施された。	A	・「学校行事や学級活動に楽しんで取り組んでいる」と肯定的に回答した児童は89.4%だった。実行委員や各学級での役割など、経験を積み重ねたことが次の活動に生かされている。 ・各委員会が工夫を凝らした取り組みを企画し、全校を巻き込んだ活動が多く実施された。	・特活主任 ・学年主任 ・ときめきチーム
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上 ②「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上	・スポーツチャレンジやスポーツに関するイベントを委員会中心に企画し、楽しく運動する機会を確保し児童の体力の向上を図る。 ・食育指導や保健体育、学級活動等での学習を通して、生活習慣を整えることの大切さを理解させる。 ・生活習慣に関するアンケートを実施する。	B	・夏季は気温が高く、昼休みの遊び時間の確保が難しかったが、スポーツに関するイベントを委員会中心に企画し、楽しく運動する機会を確保している。 ・食育指導を1～4年生まで終え、学習を通して食の大切さを理解させてきた。 ・生活習慣に関するアンケートに向け、運動習慣の形成や全校食育タイムを通して生活習慣の質の向上を図っている。	A	・クラスマッチやジョギングチャレンジ等、委員会を中心にスポーツに関するイベントを開催できた。 ・食育指導と「お弁当の日」の取り組みにより、食の大切さを実感させることができた。 ・授業以外で毎日運動をできていると肯定的に回答した児童の割合が82.1%、健康に良い食事ができていると回答した児童が94.3%だった。	・体育主任 ・栄養教諭 ・養護教諭 ・体づくりチーム
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・時間外勤務及び定時退勤推進日における個人目標を設定し、月末に振り返りを行う。管理職で確認し、声掛けを行う。 ・長期休業を中心に年次有給休暇を計画的に取得できるよう働きかける。	B	・年度当初は、時間外在校時間が45時間を超える職員が見られたが、7月からは少なくなっている。 ・定時退勤推進日は、一定の効果が見られる。今後、更に声かけを行う。	B	・運動会シーズンの10月に時間外在校時間の上限を守ることができなかった職員が多かったが、その後は少なくなっている。 ・職員1人当たりの年次休暇取得日数が14日を超えた職員は、全体の4割に満たない数であった。更なる声かけが必要である。	・管理職
●特別支援教育の充実	○合理的配慮や個に応じた支援と校内支援体制の充実	○配慮を要する児童について、教職員、保護者、関係機関と連携を図りながら、よりよい支援の在り方や具体的な支援方法を探ることができた と回答する職員85%以上	・定期的な児童理解研修や特別支援教育研修を行うことで、職員の共通理解を図るとともに、特別支援教育についての理解を深めている。 ・個別の支援計画、指導計画の作成・評価・修正を行ったり、必要に応じて校内支援委員会を開催したりして、個に応じた指導や支援について検討する。	A	・配慮を要する児童について、教職員・保護者・関係機関と連携を図りながら支援の在り方や具体的な方法を探ることができた と回答した職員は94%であり、校内における情報共有の成果が確認された。 ・今年度から「支援シート」や「りんりん支援シート」を導入し、児童の状況把握や支援内容の整理を進めている。今後は特別支援教育COを中心に活用を推進し、次年度への円滑な引き継ぎを図る。	A	・教職員、保護者、関係機関と連携しながら支援の在り方を探る取組が浸透し、全職員が「できた・だいたいできた」と回答するなど、共通理解と実践の広がりが見られた。 ・今年度導入した支援シートにより引継ぎがより明確になり、来年度は年度中の支援の検討にも活用を広げていきたい。	・特別支援教育コーディネーター
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	
○開かれた学校づくり	○地域人材及び関係機関との連携強化	○地域人材を活用した教育活動を各学年年間1回以上実施。 ○学校運営協議会やSC、SSW、鹿島市の福祉課や民生児童委員との情報交換の場を必要に応じて複数回実施	・学年に応じた地域人材を活用した教育活動を年間計画に位置付ける。 ・学校内外からの学校への指導助言を生かして学校改善を行う。 ・学校便りの配布やマチコミメールを活用した月2回以上の情報発信に努める。	A	・3年生の面作りや5・6年生の絵画指導など、地域人材を活用した教育活動を行っている。 ・SCやSSWの情報交換を密に行うことができています。夏休み中には、SCを講師とした研修会を開くことができた。学校運営協議会委員や民生児童委員との情報交換もできている。	A	・4年生の野鳥観察や5年生の家庭科サポーター、6年生のなかよし料理教室など、地域人材を活用した教育活動を年間計画に位置づけて各学年1回以上実施することができた。 ・鹿島市の福祉課や民生児童委員、放課後児童クラブ等と必要に応じて連絡を取り、情報交換を行うことができた。	・CS担当者 ・管理職

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育	<p>5 総合評価・次年度への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上に関して、学習過程を意識した授業づくりができた。また、教科ごとにある程度の授業の型が揃っていることで、児童が見直しをもって学習に取り組んだと考えられる。年3回の家庭学習教強化月間に親子で取り組んでもらうことで、児童や家庭の意識にも変化が見られる。次年度も継続して行きたい。</li> <li>毎月の心のアンケートや年に2回のいじめアンケート等を通して、いじめの早期発見につなげている。また、子ども相談で児童一人一人と話をすることができ、児童の悩みを聞いたり相談に乗ったりすることができている。次年度も、職員研修会を開催するなどして職員の意識を高め、いじめ根絶へ近づけたい。</li> <li>職員の時間外勤務時間削減のため、毎月の自己チェックを行わせた。定時退勤日の取組も含め、一定の効果が見られたので次年度も継続して行きたい。年休の取得日数については、長期休業中に更なる声かけを行うことで14日に近づけたい。</li> </ul>
---------------------------	---